



PARAGUAY

～ビジネスチャンスが広がるパラグアイ～

上田善久

在パラグアイ日本大使館

小粒でもピリリと辛いパラグアイ —高まる存在感と際立つ日系人社会—

特徴：2つのピリリ

ピリリ①

①地球の反対側の「日本」で際立つ日系人の存在感

- 農業パイオニアとして経済発展に貢献。商業分野でも誰もが知る有力企業多数。日系人の外務次官、在京大使。高い日本語レベル。
- 日系社会が築いた日本への信頼感に加え、長年の経済技術協力で蓄積された有形無形の資産。元国費留学生が設立したニホンガッコウ学院も。
- パラグアイ人と「共に」祝った日本人移住80周年

眞子内親王殿下御訪問を熱烈に歓迎。上下両院で日系人の功績を称える感謝決議。『日本祭』に1.8万人が参加(日系人1万人、人口685万人)。開かれた日系社会の証し。

②高まる南米での存在感：対南米外交に新たな視座

ピリリ②

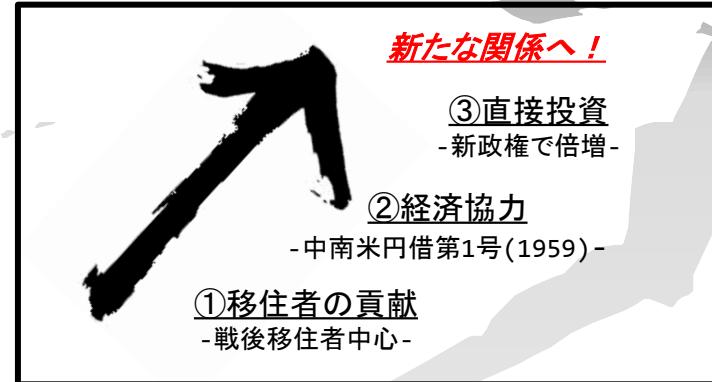
- 一貫した反ポピュリズム・自由主義経済路線：政治的な揺れの大きい南米大国を眺める新たな視座を提供。
- 良好な投資環境、マクロ経済の安定：低成長の中南米で目立つ成長期待国。
- ブラジルコスト→パラグアイチャンス：積極的な投資誘致政策。域内だけでなく、欧州企業も南米巨大市場の生産拠点として注目。
- 南米で唯一台湾と国交を有する：短期的経済利益ではない原則に基づく関係。蔡台湾総統の初外遊はパラグアイとパナマ。他方、主要貿易相手国は中国。

新たな関係へ！

③直接投資
-新政権で倍増-

②経済協力
-中南米円借第1号(1959)-

①移住者の貢献
-戦後移住者中心-



The Economist

World politics Business & finance Economics Science & technology Culture

Paraguay

Polka lessons

The surprising success of a landlocked country

Sep 24th 2016 | ASUNCIÓN | From the print edition



Like 3.4K Tweet



『内陸国の驚くべき成功』
英エコノミスト誌 9月24日

小粒でもピリリと辛いパラグアイ

—高まる存在感と際立つ日系人社会—

～マクロ経済の安定～

●安定した為替

2004年以降、対ドル・グアラニ相場は概ね4,000~6,000Gsの一定レンジで安定。

●安定したインフレ率(年間累計値)

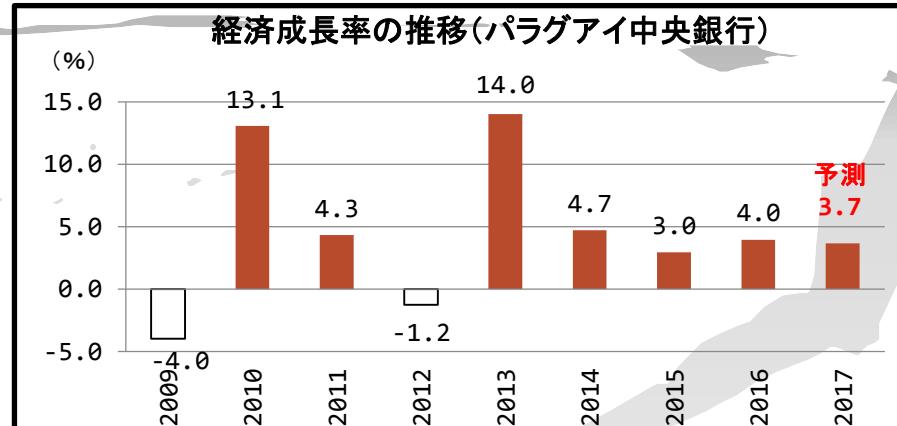
2011年4.9%，2012年4.0%，2013年3.7%，2014年4.2%，2015年3.1%，2016年3.9%

●安定した経済成長率

過去5年間の平均経済成長率は4.9%（2016年は4%，今年は推定3.7%）。従来の農業に加え、成長の原動力が製造業、建設業と多様化。国債格付けも近隣諸国と比べて高評価。

●財政責任法による慎重な財政運営

債務残高は対GDP比で約23%（2016年）。財政赤字は対GDP比1.5%以下となるよう財政責任法に規定。



格付け会社の長期国債格付け評価一覧

国名	ムーディーズ	S&P	フィッチ
パラグアイ	Ba1(安定的)	BB(安定的)	BB(安定的)
ブラジル	Ba2(ネガティブ)	BB(ネガティブ)	BB(安定的)
アルゼンチン	B3(安定的)	B-(安定的)	B(安定的)
ウルグアイ	Baa(ネガティブ)	BBB(ネガティブ)	BBB-(ネガティブ)
ペルー	A3(安定的)	BBB+(安定的)	BBB+(安定的)

今後の課題と方策

- 移住80周年で盛り上がった機運を活かし、日系の若手を更に応援。
- 経済協力の継続と民間投資の一層の促進。
- 政治・経済外交面でのパラグアイの活用に向けて→求められる要人訪パとハイレベルの対話。

小粒でもピリリと辛いパラグアイ

—高まる存在感と際立つ日系人社会—



パラグアイ共和国
(Republic of Paraguay)



- パラグアイへの援助総額は2014年までに累計約2,763億円。
- 2016年はパラグアイへの日本人移住80周年。日系人は大豆栽培を始めとする農業や商業等を通じてパラグアイの発展に関与。
- 日本は米国等と並ぶ主要ドナーとして、パラグアイのインフラ整備、人材育成等に関与。

国概要

(基礎データ)

- 面積: 40万6,752平方キロメートル(日本の約1.1倍)
 - 人口: 664万人(2015年、世銀)
 - 首都: アスンシオン
 - 民族: 混血(白人と先住民)95%、先住民2%、歐州系2%、その他1%
 - 言語: スペイン語、グラニアニ語(ともに公用語)
 - 宗教: 主にカトリック
 - 政体: 立憲共和制
 - 議会: 二院制(上院45、下院80、任期5年)
 - GDP: 6.26億ドル(2015年、世銀)
 - GNP: 一人あたり4,220米ドル(2015年、世銀)
 - 経済成長率: 3.0%(2015年、世銀)
 - 失業率: 6.0%(2015年、IMF)
- ※特に注がない場合は外務省ホームページをもとに記載。

(略史)	
1811年	スペインから独立
1864-70年	三国戦争(対ブラジル・アルゼンチン・ウルグアイ連合軍)で人口激減
1932-35年	チャコ戦争(対ボリビア)に勝利
1954年	ストロエスネル将軍がクーデターにより政権掌握
1989年2月	クーデターによるドリゲス将軍が政権掌握
1989年5月	ロドリゲス将軍、大統領に就任
2008年	ルゴ大統領就任
2012年	上院によりルゴ大統領が弾劾
2013年8月	フランコ副大統領が大統領に昇格
	カルテス大統領就任

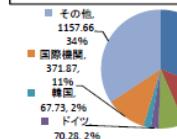
援助実績(E/Nベース)

スキーム	額(累計)/人數(延べ)
円借款	1,561.57億円 (2014年度までの累計)
無償資金協力	343.37億円 (2014年度までの累計)
技術協力	858.44億円 (2014年度までの累計)
青年海外協力隊	延べ1,162人 (2016年6月時点で59人)
シニア海外ボランティア	延べ256人 (2016年6月時点で15人)
日系社会青年ボランティア	延べ168人 (2016年6月時点で6人)
日系社会シニアボランティア	延べ47人 (2016年6月時点で4人)

出典: ODA国別データ(2015年)

青年海外協力隊事務局統計(平成28年6月末)
(注)青年海外協力隊には、短期派遣ボランティアを含む。

パラグアイへの主要ODA供与国
(1960年~2013年累積、出典: OECD/DAC)
(単位: 百万ドル、支出総額ベース)



経済関係

スキーム	金額／人數(直近年)
日本からパラグアイへの輸出	87.1億円 (2015年、財務省)
パラグアイから日本への輸出	114.7億円 (2015年、財務省)
在パラグアイ日系企業数	15社 (2016年、外務省)

人的つながり

項目	人數(直近年)
パラグアイにおける在留邦人數	3,449人 (2015年、外務省)
在日パラグアイ人數	1,903人 (2015年、法務省)
パラグアイから日本への留学生数	25名 (2015年、JASSO)

日本とパラグアイ共和国との協力年表

年代	事件
1936年	パラグアイへの日本人移住開始
1954年	技術協力の開始
1959年	日本・パラグアイ移住協定締結
同年	円借款の開始(以後累計: 案件総数18件、総額約1,562億円)
同年	研修員受入の開始
1960年	専門家派遣の開始 (以後累計: 総額約852億円、専門家派遣1,883人、研修員受入4,066人)
1972年	ストロエスネル大統領が国賓として日本を訪問
1977年	無償資金協力の開始 (以後累計: 案件総数31件、総額約350億円)
1978年	青年協力隊第一陣派遣
1976年	1976年～2008年まで、日本が最大の援助国(2004年を除く)
1979年	技術協力協定締結(総額858億円)
1980年代	日系人が大豆の不耕起栽培に成功
1989年	移住協定改定(効力無期限延長)
同年	草の根レベルに直接裨益する事業(学校建設、上水道整備等)を累計で327件実施。 (2016年7月時点)
2011年	東日本大震災の被災者に対する支援
2014年	カルテス大統領が実務訪問賓客として訪日し、「日本・パラグアイ共同声明」を発出
同年	円借款「東部輸出回廊整備計画」のE/N署名
2015年	第1回パラグアイ政策協議開催
2016年	ロイサガ外相が外務省賓客として訪日 日パラグアイ外相会談の一環として、一般文化無償「スポーツ庁訓練センター器材整備計画」のE/N署名を実施

2016年はパラグアイへの日本人移住80周年。9月9日にはアスンシオンで80周年記念式典が実施され、カルテス大統領ほかが臨席。



日本の円借款供与を開始したのは、インド、ベトナムに続き、パラグアイが世界で第3番目。



パラグアイは、南米では最初の駐員受入国。累計のボランティア派遣人数は世界でも最大の規模。(2016年2月末累計1,578名)



インフラ、人材育成等の分野で協力。日本は、現在も米国等と並ぶ主要ドナー。



草の根レベルに直接裨益する事業(学校建設、上水道整備等)を累計で327件実施。(2016年7月時点)

